

## 成果の説明書

(氏名) 溝口 哲郎	(学部) 経済学部
1 重要事項	
<p><b>【研究活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・東京大学 文化芸術における SDGs のためのファシリテーター育成事業の連続レクチャー「持続可能な社会と芸術文化」の第三回「ガバナンスと腐敗の問題、SDGs との関係」にて、レクチャーを行った。詳しくは以下のホームページを参照のこと (<a href="https://sites.google.com/view/sdgswithart/lecturers">https://sites.google.com/view/sdgswithart/lecturers</a>)。なおこのレクチャーは 2020 年度、高崎経済大学研究奨励費の研究成果の一つである。</li><li>・本学地域科学研究所の製造業プロジェクトの研究成果の一環で高崎市を本拠地とする斉藤プレス工業に関する企業調査および、タイ子会社の海外進出動向に関して、書籍の第 13 章(「ろう付け加工のプロ集団の海外展開: 斉藤プレス工業」)を提出した。書籍は 2021 年に刊行予定である。</li><li>・製造業プロジェクトに関しては、最終稿の確認を踏まえ 2021 年 2 月 12 日に開催された公開研究会「地方都市における中小製造業の存立基盤に関する研究」において、「斉藤プレス工業」の海外進出に関する報告を行った。内容は現地従業員のニーズ等についての現地アンケートや海外進出の状況に関して、本人が担当する第 13 章の原稿をベースに報告を行なった。</li></ul> <p><b>【教育活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・COVID-19 の感染が拡大したため、1 年を通じてオンライン授業（後期は 2 年生基礎ゼミのみ、対面授業）を行った。これまでの対面授業方式とは異なり、スライドや ZOOM、Teams の利用となったため、それに対応した授業を提供する準備に時間がかかった。特に緊急事態宣言等の状況によっては、オンラインと対面、ハイブリットなどの組み合わせを考える必要があり、今後も最適な教育の在り方を模索している。</li><li>・2021 年度前期に開講される Introductory Economics の授業でアクティブラーニングを行うため、セングージラーニングと交渉をし、学生の授業理解のための e-learning システム (Mindtap) の導入を行った。このシステムは学生の便宜を図る仕組みがいくつもあり、導入して効果的であった。</li><li>・2019 年度に引き続き、野村証券&amp;日本経済新聞社主催の第 21 回日経ストックリーグに 2 年生 2 チーム、3 年生 1 チームが参加した。今年は特に対面での作業が難しかったので、今後オンラインを含めた協働プラットフォームの作成を模索しているところである。</li><li>・ゼミの第一期生の卒業論文指導を行った。テーマは金融教育、トークンエコノミー、暗号通貨、ソーシャルビジネス、日本の安全保障問題、オタクの経済、結婚の経済に関する卒業論文が提出された。</li></ul>	
2 その他の事項	
オンライン授業体制の構築に力を特に注いだ。	

### 3 次年度以降の計画・抱負

教育面については以下のような計画である。

引き続き COVID-19 の感染が収束しない中、対面授業が開始された。そのため体調管理を万全にしながら、大学のガイドラインを念頭に、ゼミ・授業を万全に行い、学生のメンタルサポートなどを行っていききたい。また第二期生が希望する就職先に就職できるように全力を尽くしたい。

研究については以下の通りである。

腐敗・汚職は、市場メカニズムとは異なる賄賂などの金銭的インセンティブによって、資源配分の歪みを通じて一国の経済厚生に悪影響を及ぼす。そこで今年度も継続して、過去の研究蓄積をベースに腐敗・汚職がどのような形で国家統治や制度、市場の質に影響を与えるのかを経済厚生の評価から明らかにし、腐敗・汚職防止策がどの程度経済厚生を高めるのかを分析する。特に先進国の腐敗の問題と政府の経済政策の妥当性について分析を試みる。上記のテーマで、科研費の申請を行っている。さらに腐敗とSDGsについても新たにテーマとして加え、なぜ腐敗がSDGsを困難にするのかを検証していきたい。さらに位置情報ゲームとブロックチェーン、トークンエコノミーに関する研究を執り行い、地域経済や国家の政策につなげていききたいと考えている。